

1. コラム「論点提起」：まちづくりの主役や如何

先日、散歩がてらに街なかを歩いていると、長らく特定空家的な建物があった場所が、民間企業(若い二代目社長の水道屋さん)によるセミパブリック空間「インフラスタンド」に変貌しているのに遭遇した。「インフラスタンド」の意味合いは、通信インフラ(無料Wi-Fiエリア)、交通インフラ(シェアサイクルステーション)、情報インフラ(サイネージ・タッチパネル)、トイレインフラ(無料開放トイレ)のことで、確かに小規模ながらも今風の街なかインフラである。

【参考】【所沢市】KAWAYA-DESIGN が手がけると公衆トイレもこんなにカッコイイ！ 新たな映えスポット「インフラスタンド」の誕生です！ <https://tinyurl.com/233s984f>

KAWAYA DESINE Interview 【対談】KAWAYA-DESIGN 代表 小澤大悟×建築家 高橋真理奈 https://kawayo.net/2022/04/01/interview_takahashi/

民間企業がオフィス敷地内に設置した誰もが快適に利用できる無料の公共トイレ(KAWAYA)をコアに、私的空間と公的空間が溶け合い、コミュニティ空間をつくり出そうとしている。隣地の空き地は道路用地の残地とのことで行政が協力すればセミパブリック空間が広がる。そして、たまたま、敷地対面にある西武鉄道の軌道施設空間は戦前、駅があったとのことで、所沢市では珍しい物語があるエリアでもある。せっかくのサイネージでそうした歴史物語を見せて欲しい。加えて、軌道土台のコンクリート壁面を利用すれば物語のプロジェクションマッピングもできそうである。来月にはこの空間で「KAWAYA 市」も企画され、繋がりが広がっている。

インフラスタンドをつくった水道屋さん(二代目社長)の話を聞きながら、所沢郊外に隣接する企業(二代目女性社長)を想起した。こちらは迷惑施設と云われる産廃事業者である。よく利用している地元の所沢温泉の近くなので、見に行ったことがあるが、確かに周辺道路には産廃トラックが行き交っている。そうした業態を、所沢市周辺の農作物(ほうれん草、狭山茶等)のダイオキシン風評被害を機に、地元を受け入れられるリサイクル事業、環境事業へと変貌させ、さらにはゴミの里山であった場所を「三富今昔井村 くぬぎの森交流プラザ」というコミュニティ空間として再生させている。さらには、「オーガニックファーム」を興し、6次産業まで行っている。地方創生事業を一民間企業が、民間企業ならではの展開力で形にしている。

【参考】産廃業からリサイクル企業へ大变身！ ～絶体絶命から会社を変えた2代目女社長の格闘記～ カンブリア宮殿 2016年7月28日放送 <https://tinyurl.com/2cttj2kn>

三富今昔井村 くぬぎの森交流プラザ <https://santome-community.com/>

石坂オーガニックファーム <https://www.ishizaka-farm.co.jp/>

規模は違うが、いずれも、民間企業ならではの柔軟な発想による多目的化・連動化がなされている。若いリーダーの新たな発想で業容・業態改革、セミパブリック空間改革を行っている。補助金等に頼らない自律性、持続可能性も有している。たまたま、地元のエリアであるが、こうした事例を見るにつけ、地域に根付いた地場事業者主導による手づくり感の感じられるまちづくりの良さを実感する。行政主導ではない地方創生の新たな道筋の一つが形を見せている。

公・民の壁を超える新たなまちづくりの主役が躍動する流れが定着して欲しいものだが如何。